

奈良女子大学
工学部 工学科

学生の確保の見通し等を記載した書類

目次

ページ

I.	学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況	1
1	学生の確保の見通し	1
2	定員充足の根拠となる客観的なデータの概要	1
	(1) 調査の概要	1
	(2) 受験意向と入学意向について	2
	(3) 新学部の特色に対する魅力度について	2
3	学生納付金の設定の考え方	2
4	学生確保に向けた具体的な取組状況（予定）	2
	(1) 学校訪問	3
	(2) オープンキャンパス	3
	(3) ホームページやパンフレット等による広報	3
	(4) 県内高等学校長・進路指導教員等への説明	3
	(5) 大学説明会など高校生に対する直接広報	3
	(6) 高校との連携事業等を通じた広報	3
	(7) 工業高等専門学校との連携事業等を通じた広報	3
	(8) 本学の理系女性教育開発共同機構の行事等を通じた広報	3
II.	人材需要の動向等社会の要請	3
1	人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的	3
2	社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであること の客観的な根拠	3
	(1) 調査の概要	4
	(2) 回答企業と回答者の属性について	4
	(3) 調査結果	4
	(4) 地域からの要望	4
III.	第3年次編入学定員設定の考え方	5

学生の確保の見通し等を記載した書類

I. 学生の確保の見通し及び申請者としての取組状況

1. 学生の確保の見通し

本学が新たに設置を計画している工学部は全国初の女子のみの工学部工学科である。そのため定員充足の見込みについては、まず、近年の女子の工学部への進学動向について文部科学省の学校基本調査のデータをもとに整理する。

表1 過去3年（H28・29・30年）の工学部への女子入学志願者

区 分		国公立合計			国 立		
		男女合計	女子のみ	女子率	男女合計	女子のみ	女子率
工 学	H30	792,762	124,079	15.65%	101,299	17,103	16.88%
	H29	748,265	114,320	15.28%	100,388	16,273	16.21%
	H28	703,421	104,489	14.85%	97,432	15,385	15.79%

表2 過去10年（H20・25・30年）の工学部への女子入学者数と女子率

区 分		国公立合計			国 立		
		男女合計	女子のみ	女子率	男女合計	女子のみ	女子率
工 学	H30	88,989	14,197	15.90%	27,013	4,343	16.10%
	H25	90,924	12,350	13.50%	29,134	3,878	13.30%
	H20	93,594	10,368	11.00%	30,859	3,763	12.10%

表1, 2ともに、文部科学省学校基本調査より作成

表1に示すとおり、国公立合計の過去3年間の工学部への女子入学志願者は、毎年約1万人増加しており、国立大学の工学部への女子入学志願者だけを見ても毎年約900名増加していることがわかる。表2からは、国公立合計の過去10年間の工学部への女子入学者数・入学者の女子率が共に増加していることがわかる。ここでも国立大学の工学部の女子入学者数と女子率が共に増加していることがわかる。これらのことから、女子の工学部進学への興味や関心が年々高まっていると考えられる。

後述のアンケート結果からわかるように、企業からの理系女性人材を求める要望が高いことから、上記の結果と合わせて、女子の工学部への進学数が増加する傾向はしばらく続くものと予測できる。

これらの社会的状況から、45名の入学定員については、十分に確保できると考える。

2. 定員充足の根拠となる客観的なデータの概要

【資料1 奈良女子大学「工学部工学科」(仮称)設置に関するニーズ調査(高校生対象調査)】

【資料2 高校生対象 調査票】

【資料3 設置構想資料】

受験生からのニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「奈良女子大学「工学部工学科」設置に関するニーズ調査」を実施した。

(1) 調査の概要

調査対象は、進学実績をもとに、群馬県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県の高校32校を抽出し、工学部開設予定年度である令和4年度に大学1年生となる、令和元年度現在の高校1年生の女子生徒を対象にアンケート調査を実施した。調査期間は、令和元年11月22日から令和元年12月20日まで、調査方法は、事前に本学から各対象校へ調査への協力を依頼し、了解を得た後、第三者機関からアンケート調査用紙を送付し、本学工学部の

概要を提示した上で、高校内でホームルーム等を利用して、高校教員による配付、回収を行った。調査結果の回収状況は、対象とした29校（配布数5,392人）から、3,903人の回答（全て女子生徒）が得られ、回収率は、72.4%であった。回答者は、14.0%が文系クラス、9.7%が理系クラスで、66.6%が文理に分かれていないクラスに所属している女子生徒である。

（2）受験意向と入学意向について

表3に示すとおり、回答が得られた3,903人のうち、奈良女子大学工学部工学科を「受験したいと思う」と回答した人は333人（8.5%）であった。この受験意向者333人のうち、工学部工学科への入学意向者は272人で、入学定員数に対する入学意向者数の割合は6.0倍であり、入学定員数を大きく超えている。

表3 工学部工学科への受験意向と入学意向

	入学定員(a)	受験意向者	入学意向者(b)	b/a（想定倍率）
工学部工学科	45名	333名	272名	6.04倍

近畿圏の高校在籍者からの入学意向は7.4%（3,385人中、251人）と、予定している入学定員数の5.6倍の入学意向者がみられた。本学の所在地である「奈良県」の高校在籍者からの入学意向は8.5%（1,416人中、121人）と、予定している入学定員数の2.7倍の入学意向者がみられた。

（3）新学部の特徴に対する魅力度について

新学部の特色（学びの内容、養成する人材像）に対して「とても魅力を感じる」、及び、「ある程度魅力を感じる」を合わせた割合は（これを以下では「魅力度」と呼ぶ）全ての項目で69%を越えている。魅力度が高い上位2者は、「女性視点の新規分野創出など次世代を担う多様な進路（IoTやロボット、人工知能などの新技術を使った新規分野を創出する力を身につけることで、各種製造業や情報通信業、建築、生体医工学などの多様な分野での進路が想定できます。）」の76.3%、及び、「工学の基礎となる教養教育と新分野を開拓する専門教育の融合（創造的課題解決演習（PBL）や学生と企業・研究所等とのコラボ教育など実践を通じた学びに触れることで、現代社会の課題を発見し、解決していく力を身につけます。）」の69.2%と、高校生にとって魅力的な特色を有する学部であることがうかがえる。

今後、高校への広報等を強化し、新学部の魅力を十分に発信することによって、潜在的な志願者層を開拓するとともに、今回のアンケートを実施していない高校等全国を対象とすることで、更なる志願者を確保することが可能であると考えられる。

以上のように、学生ニーズの現状や広報等の強化による学生確保の取組などから、入学定員45名を中長期的に確保することが可能である。

3. 学生納付金の設定の考え方

他の学部（文学部、理学部、生活環境学部）と同様に、「国立大学等の授業料その他の費用に関する省令」に定める標準額と同額に設定する。

4. 学生確保に向けた具体的な取組状況（予定）

本学では、お茶の水女子大学と共同で設置した理系女性教育開発共同機構において、理系女性人材を育成する事業を高校生に対して実施しており、今後、そこでは女性の工学系人材の育成についても大きな取組になる。以下には、特に重点的に取り組む広報活動についてあげる。

(1) 学校訪問

本学部の専任教員等が、近畿圏内はもとより進学実績をもとにした全国の高校を中心に、学校訪問し広報活動を行う。

(2) オープンキャンパス

7月および11月に開催するオープンキャンパスにおいて、新学部の広報を行う。

(3) ホームページやパンフレット等による広報

新学部の概要等に関するパンフレットなどの資料を作成し、全国の高校に広報するとともに、新学部に関する情報を本学のウェブサイト上に公開する。

(4) 県内高等学校長・進路指導教員等への説明

奈良県内の高等学校長及び進路指導教員との意見交換を実施するとともに、新学部の広報を行う。

(5) 大学説明会など高校生に対する直接広報

全国から受験生を確保するため、大手予備校を訪問し、講師や予備校生に対する広報を行う。

大規模な高校生を対象とした進路説明会夢ナビライブや大学情報センターの大学説明会等に本学は年間30回以上参加しているが、工学部の広報も行う。

(6) 高校との連携事業等を通じた広報

本学の附属中等教育学校はスーパーサイエンス・ハイスクールの指定校であり、その事業の一つとして近畿圏の女子生徒を対象とした研究交流会等を実施しており、それらの場で新学部の広報を行う。

(7) 工業高等専門学校との連携事業等を通じた広報

2019年度文部科学省科学技術人材育成費補助事業「ダイバーシティ研究環境実現イニシアティブ（牽引型）」において近隣の工業高等専門学校との連携をおこなっているが、女性研究者、女性研究者の拡大に向けてそれらの場を通じた広報を行う。

(8) 本学の理系女性教育開発共同機構の行事等を通じた広報

本学の理系女性教育開発共同機構において、高校生を対象としたさまざまな行事を複数回行っているが、それらの場での新工学部の広報を行う。

II. 人材需要の動向等社会の要請

1. 人材の養成に関する目的その他の教育研究上の目的

新学部では、社会構造や産業構造の急速な変化に対応しつつ、新たな課題に柔軟かつ的確に対応でき、さらに、予測不可能な世界で未来を切り開くための新規分野の創出や、分野横断的なアイデアを生み出せる人材として、「主体性と理解力」「専門性と問題解決力」「社会性と波及力」を身につけた人材の育成を目的としている。

また、わが国の大学では初めて女子学生のみを対象とする工学の教育プログラムを行うことで、女性が活躍する工学を確立し、工学系女性人材の増加を図る。

2. 社会的・地域的な人材需要の動向等を踏まえたものであることの客観的な根拠

【資料4 奈良女子大学「工学部工学科」(仮称)設置に関するニーズ調査(企業対象調査)】

【資料5 企業対象 調査票】

企業からのニーズを把握するため、第三者機関である「株式会社進研アド」への委託による「奈良女子大学「工学部工学科」設置に関するニーズ調査(企業対象調査)」を実施した。

(1) 調査の概要

調査期間は、令和元年11月22日から12月20日まで、調査対象は、本学卒業生が就職している、又は就職先として想定される企業・団体を対象にして、25都道府県（北海道、茨城県、埼玉県、千葉県、東京都、神奈川県、新潟県、富山県、石川県、福井県、長野県、岐阜県、静岡県、愛知県、三重県、滋賀県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県、島根県、岡山県、広島県、愛媛県、福岡県）の457社の人事関連業務に携わっている人を対象とし、調査方法は、第三者機関からアンケート調査用紙と本学工学部の概要を郵送し、その返信を回収した。その内、172社から有効回答を得た（有効回答率37.6%）。

(2) 回答企業と回答者の属性について

回答企業の本社所在地は、「東京都」が27.3%で最も高い。次いで「大阪府」が25.6%、「京都府」が8.7%である。回答企業の業種としては「製造業」が42.4%で最も高い。次いで「情報通信業」が32.0%、「サービス業」が10.5%である。回答企業の従業員数（正規社員）は、「1,000名～5,000名未満」が30.2%で最も高い。次いで「100名～500名未満」が27.3%、「500名～1,000名未満」が14.5%である。回答者の人事採用への関与度を聞いたところ、「採用の決裁権があり、選考にかかわっている」人は25.6%「採用の決裁権はないが、選考にかかわっている」人が64.5%と、採用や選考にかかわる人事担当者からの意見を聴取できていると考えられる。

(3) 調査結果

本学が新たに設置を計画している工学部の特色に対する魅力度と採用意向をみると、次のとおりである。なお、魅力度とは有効回答数に対して、「とても魅力を感じる」または「ある程度魅力を感じる」と回答した企業の割合である。

奈良女子大学「工学部工学科」の特色に対する魅力度は、すべての項目で9割を超える。最も魅力度が高いのは、「女子大学では初めてとなる「工学部工学科」を新設（文理融合の現代版リベラルアーツ教育を基盤とし、創造性と批判的思考力を身につけ、科学技術で豊かな社会を構築する工学分野での女性リーダーを目指します。）」と「工学の基礎となる教養教育と新分野を開拓する専門教育の融合（創造的課題解決演習（PBL）や学生と企業・研究所等とのコラボ教育など実践を通じた学びに触れることで、現代社会の課題を発見し、解決していく力を身につけます。）」で、ともに97.1%である。「女性視点の新規分野創出など次世代を担う多様な進路（IoTやロボット、人工知能などの新技術を使った新規分野を創出する力を身につけることで、各種製造業や情報通信業、建築、生体医工学などの多様な分野での進路が想定できます。）」の魅力度は95.3%であるが、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合は71.5%で最も高い。

社会的必要性については、97.7%（168企業）が「必要だと思う」と回答しており、多くの企業からこれからの社会にとって必要な学部学科であると評価されていることが窺える。

採用意向については、卒業生を「採用したいと思う」と答えた企業は、93.6%（161企業）である。また、その161企業へ卒業生の採用を毎年何名程度想定しているか聞いたところ、採用想定人数の合計は334名（入学定員の7.6倍）で、予定している入学定員数45名を大きく上回っている。このことから、安定した人材需要があることがうかがえる。

(4) 地域からの要望

奈良県の高等学校では、奈良県教育振興大綱のもとで、グローバル化や情報通信技術をはじめとする技術革新の進展に対応しながら、高い付加価値を生み出し、かつ世界に伍して活躍する新しい価値を創造していくことができる人材の育成に取り組んでいる。その中で、実践的な課題解決（PBL）型の教育を核とし、社会及び地域にイノベーションを創出する女性工学系人材を育成することを目的とした新学部の教育課程に対し、大きな期待

が寄せられている。また、既存の工学部が存在しない奈良県にとって、高校生の進路選択の幅が増えることになる新学部に対して早期の設置が望まれている。

また、これまで女性人材を輩出してきた本学に対し、奈良県に關係する企業をはじめ、関西の産業界・経済界の諸団体からも新たな工学系女性人材の育成に対し強い要望が寄せられており、社会的・地域的な人材需要が十分にあることがわかる。

【資料6 要望書】

Ⅲ. 第3年次編入学定員設定の考え方

本学部では、第3年次からの編入学を受け入れる。定員は10名を予定しており、高等専門学校や短期大学を卒業または卒業見込みの者に限らず、大学既卒者や4年制大学在学者も含むものとし、多様な進路選択の可能性を提供する。

定員の設定については、これまでの本学既設学部における志願者および合格者数の実績(表4)に基づくものであり、特に本学部の定員移動元である生活環境学部の実績に基づき、学生確保は十分に可能であるとする。

また、同県内にある奈良工業高等専門学校では、平成31年度入試より推薦選抜区分に新たに女性エンジニアリーダー養成枠を設け、女子学生比率の向上を目指しており、さらに同高等専門学校女性エンジニア養成推進センターを中心に「しなやかエンジニア教育プログラム」を開始している。これは、豊かな感性や表現力、コミュニケーション力を身に付けたエンジニアリーダーの育成が目的の教育プログラムであり、女性エンジニアリーダー養成枠で入学した生徒が優先して選抜され、プログラム受講生の8割近くが女子生徒となっている。

このように近隣の工業高等専門学校において、日本の社会に求められている女性エンジニアリーダーの養成を推進していることから、女子に限定された本工学部編入学への需要も高いと考える。

表4 第3年次編入学選抜実施状況

	平成28年度				平成29年度				平成30年度				平成31年度			
	志願者	受験者	合格者	入学者												
文学部	21	18	11	9	29	27	14	12	33	28	12	12	42	36	11	11
理学部	31	30	12	8	27	27	11	5	24	24	15	11	27	26	12	9
生活環境学部	33	32	14	11	48	47	16	15	49	47	14	11	48	47	14	13
合計	85	80	37	28	104	101	41	32	106	99	41	34	117	109	37	33

資 料 目 次

(学生の確保の見通し等を記載した書類)

- 資料 1 奈良女子大学「工学部工学科」(仮称)設置に関する
ニーズ調査(高校生対象調査)
- 資料 2 高校生対象 調査票
- 資料 3 設置構想資料
- 資料 4 奈良女子大学「工学部工学科」(仮称)設置に関する
ニーズ調査(企業対象調査)
- 資料 5 企業対象 調査票
- 資料 6 奈良女子大学における工学部設置への要望書

資料1 奈良女子大学「工学部工学科」(仮称)設置に関する
ニーズ調査(高校生対象調査)

**国立大学法人 奈良女子大学
「工学部 工学科」(仮称)
設置に関するニーズ調査
結果報告書
【高校生対象調査】**

**令和2年2月
株式会社 進研アド**

高校生対象 調査概要

1. 調査目的

2022年4月開設予定の奈良女子大学「工学部 工学科」新設構想に関して、高校生からの進学ニーズを把握する。

2. 調査概要

		高校生対象調査
調査対象		高校1年生
調査エリア		群馬県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県
調査方法		高校留置き調査
調査対象数	依頼数 (依頼校数)	5,392人(32校)
	有効回収数 (回収校数)	3,903人(29校) 有効回収率:72.4%
調査時期		2019年11月22日(金)～2019年12月20日(金)
調査実施機関		株式会社 進研アド

3. 調査項目

高校生対象調査
<ul style="list-style-type: none">・性別・高校種別・高校所在地・所属クラス・高校卒業後の希望進路・興味のある学問系統・奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に対する魅力度・奈良女子大学「工学部 工学科」への受験意向・奈良女子大学「工学部 工学科」への入学意向

高校生対象 調査結果まとめ



高校生対象 調査結果まとめ

回答者の属性

※本調査は、奈良女子大学の「工学部 工学科」に対する需要を確認するための調査として設計。奈良女子大学の主な学生募集エリアである群馬県、福井県、京都府、大阪府、兵庫県、奈良県に所在する高校の高校2年生に調査を実施し、3,903人から回答を得た。

- 回答者の性別は「女性」が100.0%である。
- 回答者の在籍高校種別は「国立」が7.0%、「公立」が51.0%、「私立」が42.0%である。
- 回答者の在籍高校所在地は、奈良女子大学の所在地である「奈良県」が36.3%で最も多い。次に「大阪府」が28.3%、「京都府」が16.4%と続く。
- 回答者の所属クラスは「コース選択はない」が66.6%を占め、最も多い。次に「文系クラス(文系コース)」が14.0%、「理系クラス(理系コース)」が9.7%と続く。

高校卒業後の希望進路や興味のある学問系統

- 回答者の高校卒業後の希望進路を複数回答で聴取したところ、「国立大学に進学」の割合が73.7%で最も高い。次いで「公立大学に進学」が50.0%、「私立大学に進学」が41.6%と続く。国立大学への進学志望者が多いことから、奈良女子大学がターゲットとする対象に調査を実施出来ていると考えられる。
- 回答者の興味のある学問系統を複数回答で聴取したところ、「文学(心理学、考古学、地理学、歴史学、哲学など含む)」が26.6%で最も高い。次いで、「医・歯・薬学」が25.3%、「看護・保健学」が20.8%と続く。

高校生対象 調査結果まとめ

奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に対する魅力度

- 奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に対する魅力度(※)は、すべての項目において6割を超える。
- 最も魅力度が高いのは、「C. 女性視点の新規分野創出など次世代を担う多様な進路 IoTやロボット、人工知能などの新技術を使った新規分野を創出する力を身につけることで、各種製造業や情報通信業、建築、生体医工学などの多様な分野での進路が想定できます。」(76.3%)であり、「とても魅力を感じる」と回答した人の割合も25.5%で最も高い。

次に魅力度が高いのは、「B. 工学の基礎となる教養教育と新分野を開拓する専門教育の融合 創造的課題解決演習(PBL)や学生と企業・研究所等とのコラボ教育など実践を通じた学びに触れることで、現代社会の課題を発見し、解決していく力を身につけます。」(69.2%)で、最後に「A. 女子大学では初めてとなる「工学部 工学科」を新設 文理融合の現代版リベラルアーツ教育を基盤とし、創造性と批判的思考力を身につけ、科学技術で豊かな社会を構築する工学分野での女性リーダーを目指します。」(69.0%)である。

※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

奈良女子大学「工学部 工学科」への受験意向・入学意向

- 奈良女子大学「工学部 工学科」を「受験したいと思う」と答えた人は、8.5% (333人)である。
- 奈良女子大学「工学部 工学科」を「受験したいと思う」と答えた333人のうち、「入学したいと思う」と回答した人は、81.7% (272人)である。

高校生対象 調査結果まとめ

奈良女子大学「工学部 工学科」への入学意向者数

※ここからは、奈良女子大学「工学部 工学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を奈良女子大学「工学部 工学科」の入学意向者と定義し、分析を行う。

- 回答者全体における入学意向は7.0% (272人) で、予定されている入学定員45人を6倍以上上回る入学意向者がみられた。

<属性別>

◇高校所在地別

- 「近畿」エリアの高校在籍者からの入学意向は7.4% (3,385人中、**251人**)と、予定している入学定員数を5倍以上上回る入学意向者がみられた。奈良女子大学の所在地である「奈良県」の高校在籍者からの入学意向は8.5% (1,416人中、**121人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

◇高校卒業後の希望進路別

- 奈良女子大学を受験・入学する可能性が高い「国立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は7.9% (2,875人中、**228人**)と、予定している入学定員数を5倍以上上回る入学意向者がみられた。
- 「公立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は8.1% (1,953人中、**159人**)と、予定している入学定員数を3倍以上上回る入学意向者がみられた。「私立大学に進学」を考えている回答者の入学意向は6.8% (1,622人中、**110人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。

高校生対象 調査結果まとめ

◇興味のある学問系統別

- 「工学」に興味がある回答者の入学意向は29.2% (449人中、**131人**)と、予定している入学定員数を2倍以上上回る入学意向者がみられた。また、「理学」に興味がある回答者の入学意向は17.6% (499人中、**88人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。
- また、「医・歯・薬学」に興味がある回答者の入学意向は9.1% (988人中、**90人**)と、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。ほかに、「看護・保健学」に興味がある回答者の入学意向も7.9% (813人中、**64人**)と、学部の学びに直結する工学以外に、医療系志望者についても、予定している入学定員数を上回る入学意向者がみられた。

◇奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に対する魅力度別

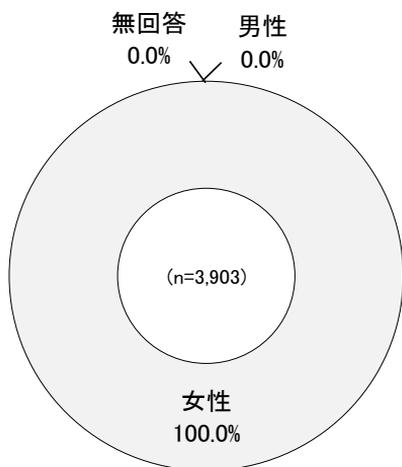
- 奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に魅力を感じている回答者のうち入学意向者数は、いずれの特色でも入学定員数を大きく超えており、新学部・学科の特色に魅力を感じた人からの入学意向が高い傾向がうかがえる。

高校生対象 調査結果

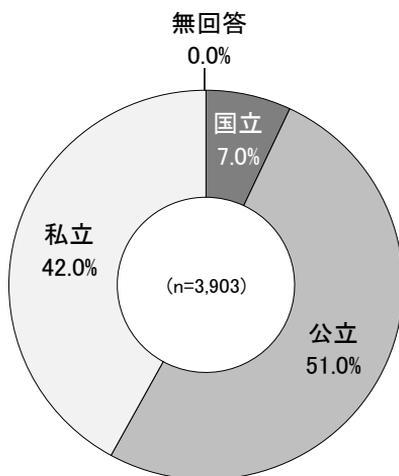


回答者の属性(性別／高校種別／高校所在地／所属クラス)

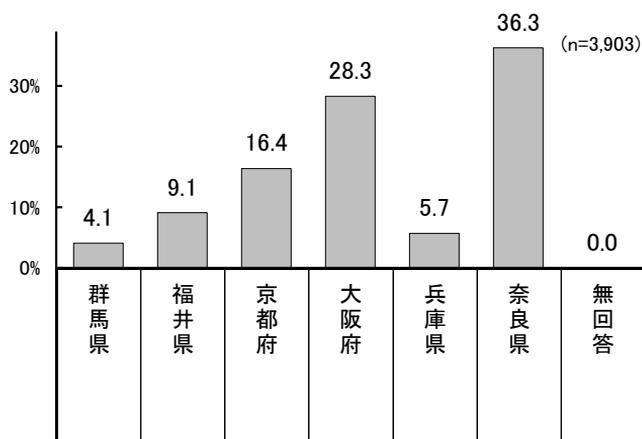
■性別



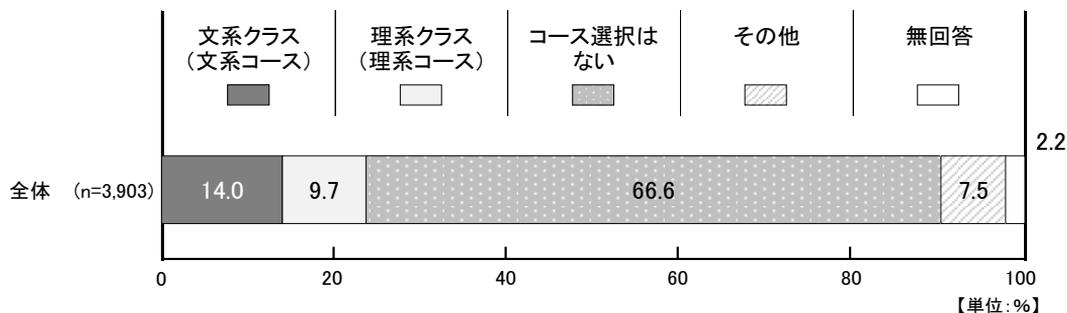
■高校種別



■高校所在地



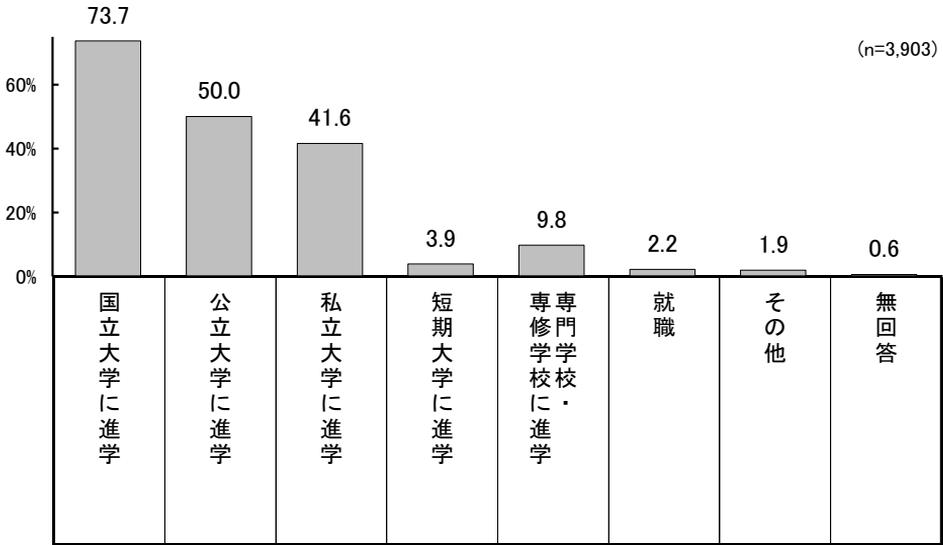
■所属クラス



高校卒業後の希望進路／興味のある学問系統

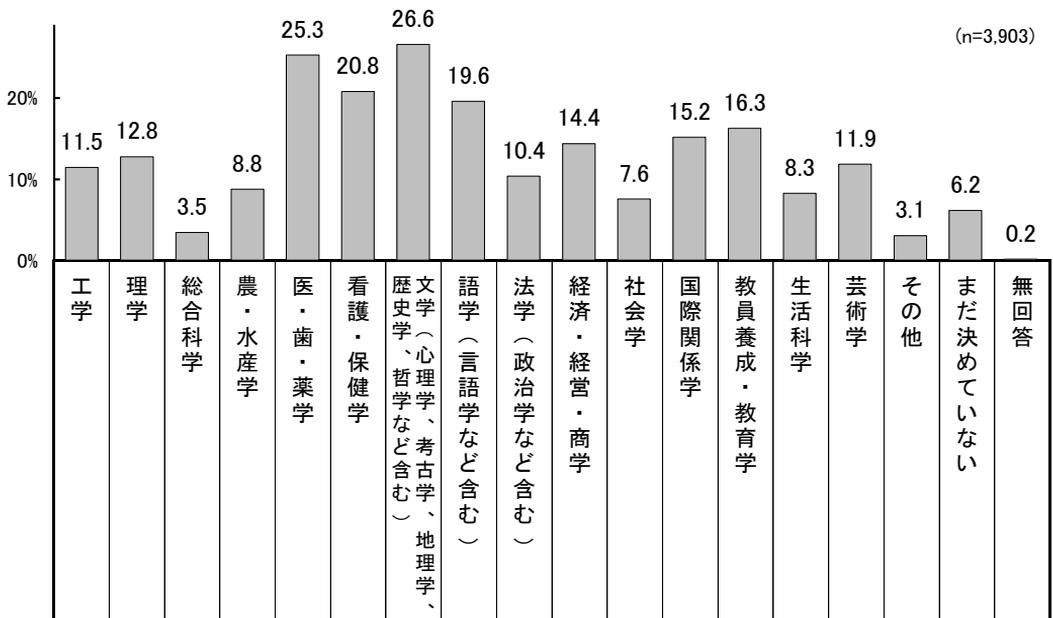
■高校卒業後の希望進路

Q1. あなたは、高校卒業後の進路について、現時点ではどのように考えていますか。
以下の項目から、あてはまる番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)



■興味のある学問系統

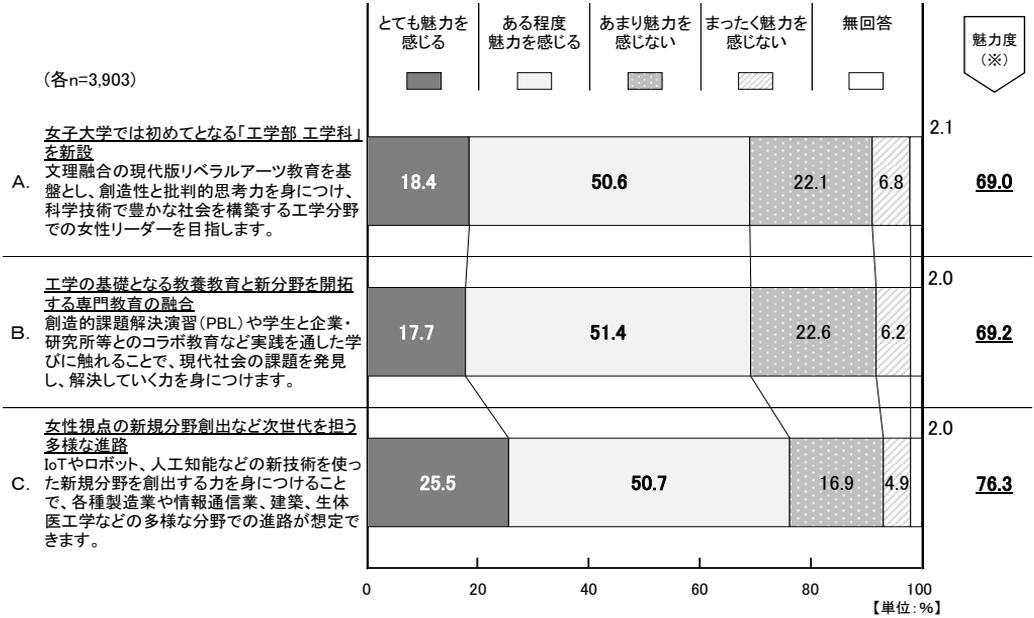
Q2. あなたは、どのような学問に興味がありますか。
以下の項目から、興味のある学問系統の番号すべてに○をつけてください。(いくつでも)
(現時点で進学を希望されていない方も、進学する場合を想像してお答えください。)



奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に対する魅力度

■奈良女子大学「工学部 工学科」の特色に対する魅力度

Q3. 国立大学法人 奈良女子大学「工学部 工学科」(仮称、設置構想中)には、以下のような特色があります。それぞれの特色について、あなたはどの程度魅力を感じますか。(それぞれ、あてはまる番号1つに○)



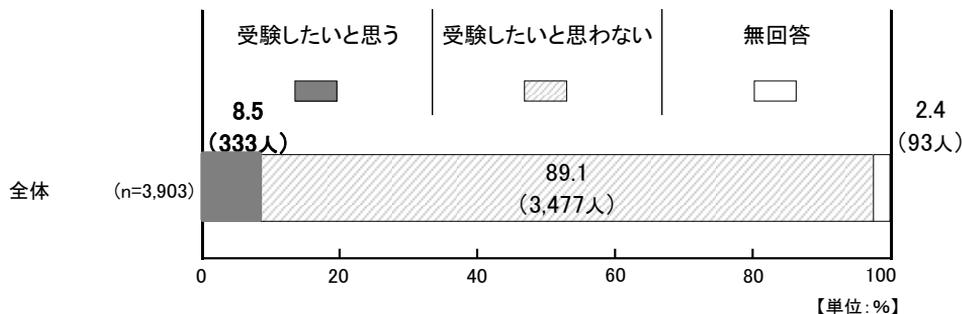
※魅力度＝「とても魅力を感じる」「ある程度魅力を感じる」と回答した人の合計値

※魅力度は、人数をもとに%を算出し、小数点第二位を四捨五入しているため、「とても魅力を感じる」と「ある程度魅力を感じる」の合計値と必ずしも一致しない

奈良女子大学「工学部 工学科」への 受験意向／入学意向

■奈良女子大学「工学部 工学科」への受験意向

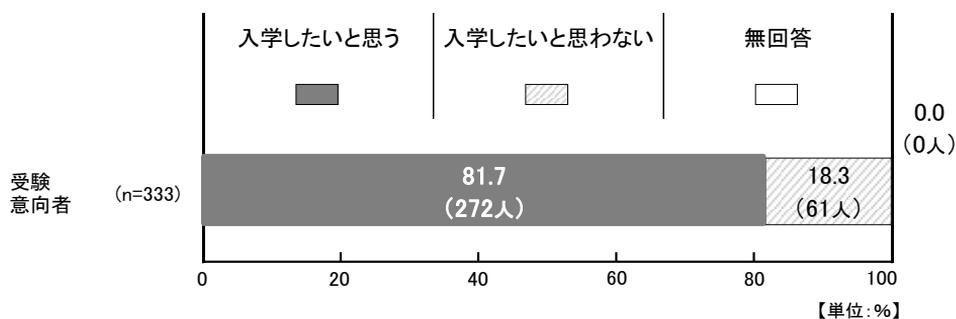
Q4. あなたは、国立大学法人 奈良女子大学「工学部 工学科」(仮称、設置構想中)を受験してみたいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験したいと思う」と答えた333人のみ抽出

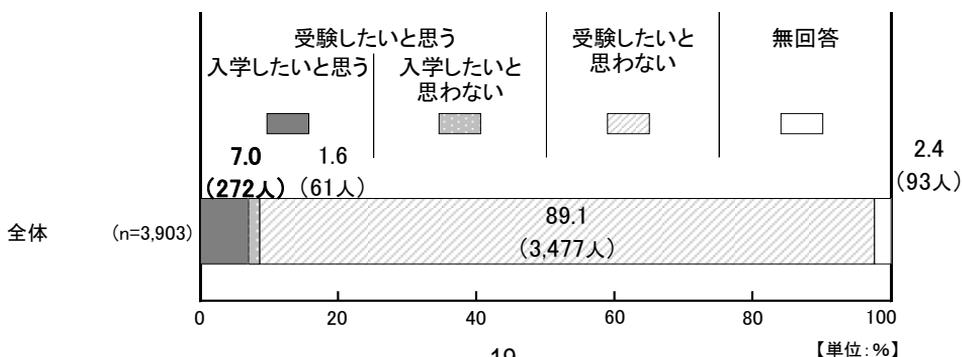
■奈良女子大学「工学部 工学科」への入学意向

Q5. あなたは、国立大学法人 奈良女子大学「工学部 工学科」(仮称、設置構想中)に合格したら入学したいと思いますか。
あなたの気持ちに近い方の番号1つに○をつけてください。(1つだけ)



「受験意向(Q4)」と「入学意向(Q5)」を
かけあわせて集計(母数は全回答者)

■奈良女子大学「工学部 工学科」への受験意向別入学意向

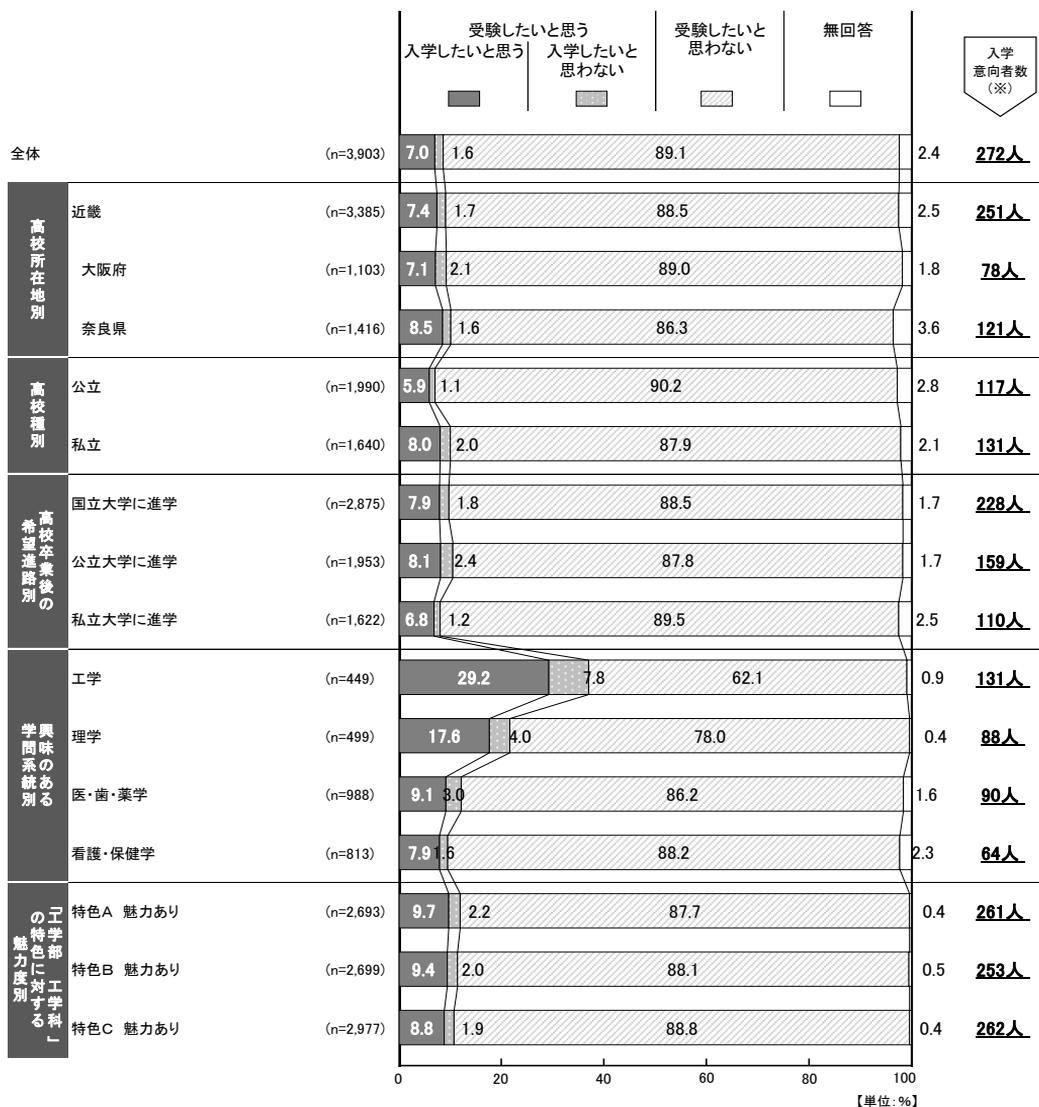


奈良女子大学「工学部 工学科」への受験意向別 入学意向<属性別>

■奈良女子大学「工学部 工学科」への受験意向別入学意向<属性別>

※奈良女子大学「工学部 工学科」に対して、Q4で「受験したいと思う」と回答し、かつ、Q5で「入学したいと思う」と回答した人を奈良女子大学「工学部 工学科」の入学意向者と定義する。

<属性別>



※入学意向者数＝「受験したいと思う」かつ「入学したいと思う」と回答した人の人数

資料 2 高校生対象 調査票

